

## 関西新春合同歌会 in 京都 盛況でした！ 早いものでもう3月になりました



2月22日、京都市内のホテルで、2026年度関西新春合同歌会が約70名参加で、盛況に開催されました。いずれ本誌に詳しい歌会レポートが掲載されることになると思いますので、本通信には個人的な思いと、その時の触れあいを綴ることにいたします。

8年前に会社をリタイアして以来、元同僚から、あるいは先輩から「お前毎日どういうふうな時間を過ごしている、オレはやることがなくて、ヒマでヒマでしょうがない。孤独だ、一日中誰とも口をきかないことがある」といった内容の電話が時折掛かってきます。

私が、「五行歌という趣味を持っていて、会社員時代よりも、プライベートな時間はむしろ充実していて、忙しいぐらいです」と応じると「ふ～ん」と言ったきり後は無言。「一度五行歌の歌会に出てこられませんか？」と誘っても、「俺には文芸のセンスはないからな～」との尻込み反応。彼らは一応国語の出版社に勤めていた人達なので、言葉のセンスはあるはずなのですが、初心者として、いまさら一から（新興の）短詩系文芸を学ぶというのは、その方々のプラ

イドが許さないのでしょうか…悲しいなあ、もったいないなあ、その都度思います。（交流を）「求めよさらば与えられん」と思うのですけどね…。

さて当日の合同歌会ですが、小歌会テーブルの私の右となりが宮澤慶子さん、左隣がひまわりさんでした。宮澤さんの元気なお声を聞くことが出来て、いい一刻でした。ひまわりさんは上田さんの後を受けて「大阪歌会」の代表に復帰されました。今回の幹事歌会はふくや歌会でしたが、夕月代表はじめ皆さん全力投球で楽しい時間を過ごすことができました。久しぶりの触れ合いと情報交換が出来るのも、合同歌会の良さや醍醐味だなあと、改めて感じました。

3月きんき例会の1席は玉虫さん、被災地に向ける温かな眼差し、2行目が効いています。2席は小倉はじめさん、春への気分が上向くタイムリーなお歌。3席は2首で、まず平村歌、「ころんと丸い」がカワイイです。いぶやん歌昔の文書作成ソフトの名前を使っの時事歌に評価いただき恐縮でした。

(いぶ記)

## 第 324 回きんきサロン

1  
如月の  
和邇川を歩く  
キラキラと  
光る水面は  
もう春が乗っている  
小倉はじめ 11 点 二席

2  
出会った時からずっと  
ころんと丸い  
お雛さまに  
癒され  
守られ  
平村幸子 8 点 同三席

3  
被災地の銭湯は  
町の廃材で温まる  
集まる人  
みんな優しく  
みんな哀しい  
玉虫 12 点 一席

4  
立春過ぎての雪に  
身ぶるいし  
とまどうが  
菜花の開花も  
ちらほらと  
黒田節子 5 点

5  
列島の四海  
笑ってる  
僕の心臓  
悶えてる  
背骨が列島になったんだ  
ほたるいかさだ \*

6  
ひな人形  
段ボールに詰めて  
お寺供養へ  
箱入り娘にいい  
縁結びありますように  
西村康則 \*

7  
一挙手一投足を  
注目したい人  
固唾を吞んで  
キミを  
見ている 今  
HIKARIKO \*

8  
時代と共に  
下の名もどんどん変わる  
今はサナエの時代だ  
一太郎と花子は  
どこへ行った？  
いぶやん 8 点同 3 席

■「\*」印は 4 点以下、点数非開示。

■（参加者：7 名）  
いぶやん・小倉はじめ・黒田節子・玉虫・  
HIKARIKO・平村幸子・ほたるいかさだ

（歌のみ）西村康則

■編集長の一言



関西新春合同懇親会乾杯発声は、伊吹きんきサロン代表、料理はホテル内和食濱登久から、彩り、味、リーズナブル価格すべて素晴らしかったです。ふくや歌会さんありがとうございました。上位入賞者は、上記の写真。一席の美雨さん草壁賞の夕月さんはじめ全員女性でした。男性陣来年はがんばりましょう。



3 月になりました。春はそこまでの季節、琵琶湖岸の菜の花もこんな感じです。体調管理しながら無事春を迎えましょう。（はじめ記）